

平成20年度第4回政策評価委員会 摘録

平成21年3月17日(火)  
午後3時から午後5時まで  
いさご会館 第1・第2会議室

議事1 報告事項(「平成20年度施策評価の評価区分」等について)

質疑なし

議事2 平成20年度施策評価の検証について

- (1) 検証の手法及び試行的検証の実施について
- (2) 検証の対象とする施策課題等について

委員長 事務局の説明に対して、御意見等があれば、お願いしたい。

委員 現在、所管課で評価票を作成中だと思うので、来年度以降の話になると思うが、市の職員が2008年度の評価票で仮にC(課題解決が不十分で取組の改善が必要である)と評価した場合、2009年度の目標としてB(目標に向かって一定の成果が上がっている)に引き上げますと書いていただけると、1年後にBに上がりましたねとか、Cのままですねということが確認できて、もう少し結果が分かりやすくできるのではないかと思う。いまの時点ですぐにということは難しいと思うが・・・。

事務局 試行的検証を行う3つの施策についてだけならば、いまからでも対応できると思いますが、今回の見直しで、次年度以降の方向性の欄を新設した目的が、この評価を踏まえて、施策の改善を図ることを目的(C評価をBやAに改善する)としているので、来年度の目標を記入することについては、少し検討させてもらいたい。

委員 保育の施策のように、市が一生懸命に対策を行っても、社会環境が大きく変化(開発により人口が急増)して、なかなか、そのように行かない場合もある。そのあたりの社会環境の変化も配慮する必要があると思う。

委員長 評価を指標で見えていくという部分が強い場合、そういうことが起こりがちだと思う。そうした場合、評価は変化に合わせて見ていくべきであって、そうい

った部分も含めて、どこまで説明責任を果たしていくのかということだと思う。行政が社会環境の変化も踏まえた成果の説明をし、読み手である市民が分かるようになっているかということがポイントになると考える。

副委員長 この委員会では、施策を分かりやすく市民に説明できているかということを見るということだったと思うが、確認したい。

委員長 従来、そういうスタンスで行ってきた。今回、試行的に実施する評価区分の検証についても、市民の納得が得られる説明が行われているかという視点で行うので、スタンスに変わりはない。

事務局 政策評価委員会における検証は、市民への説明責任が果たされているか、書いてあることから読み取れるかということが基本であると考えている。検証も3年が経過し、今後の検証の方向性について、今回実施する試行的な検証の結果などを参考にしながら、検討していければと思っている。

委員長 基本的には、市の側で、どのようにして、CをBにしていくかということに緊張感を持って、決意表明のような形で記述してもらいたいと思う。

事務局 次年度の方向性については、ただいまの委員の皆様の意見を踏まえ、仮にCと評価したのであれば、それをどのように改善して、BなりAなりにしていくかということ具体的かつ分かりやすい記述に努め、市民への説明責任を果たしていきたいと考える。

### 議事3 評価委員によるモデルケースの検証

委員長　それでは、これから各委員に事前に検証していただいた結果について、フリーに意見交換したいと思う。狙いは、検証を行うに当たって、委員間で一定のコンセンサスを得ることである。評価マニュアルに関することでも良い。

委員　マニュアルに記載されている、“良”、“可”、“要改善”の判断基準だが、“可”と“要改善”の判断は結構悩ましい。最低限の説明責任とはどの程度とするかについて、各委員の判断がバラついていると思う。おそらく記載内容を改める必要があるという点に力点を置いた委員は“要改善”とし、この程度なら最低限の説明責任が果たされていると判断された委員は“可”となっているということだと思う。だとすると、この辺を明確にした方が良いと思う。私の感覚としては、“要改善”は「全く分からない、市民への説明責任を果たしていないという状態」を設定すべきと思う。そうすると、“可”と“要改善”が少し明確になると思う。

委員　評価する時の視点が違うといけないから、意見調整をするということか。

委員長　例えば、事実誤認や市民が誤解を招くような記載があれば、“可”ではなく“要改善”とするというように、ベースとなる考え方、基準を合わせようということである。見方をある程度、揃えましょうということで、全員が同じ意見にならなければいけないということではない。

委員　意見の調整ではなくて、基準の確認ということですね。

委員長　そのとおりです。

委員　ハード整備の施策だと、目標が「　　を整備します」となっていて、成果が「　　を整備しました」となっていれば、満点だが、目標が「　　を整備し、その結果、　　する」となっている場合には、単に「　　を整備しました」では、目標に対応した説明になっていないことになる。こうした場合、この委員会としては、どう評価すべきか。

委員長 世の中の流れとしては、単に整備しましたではなく、整備したものが本来の目的を達しているのか、ちゃんと利用者がいて、受益者がいるという点の説明がないと、それはまずいということになる。現在の評価の一般的なものはOUTPUT(何をつくったか)ではなく、OUTCOME(つくったことでどんな効果があったか)ということで、どういうふうに成果をあげているかが重視されるべきということについては、委員間で異論がないと思う。そうした点からすれば、我々は何々をしましたというだけでは、それは“良”はつかない、期限どおりやりましたとしても、それは“良”ではなくて、それは“可”ということになる。そして、それに対する説明が何も書いていなければ、それは“要改善”ということになるのではないかと思うが、いかがか。

できましたでは、十分ではなく、それが効果、成果をあげましたという説明がないと、“良”にはならない。では、“要改善”とは何なのかという話が出てくるが、“要改善”とは、市民に誤ったメッセージを与えているとか、説明のつじつまが合わないといった場合に、我々も分からないわけで、“要改善”ということになる。

委員 私も、訳が分からないというのが“要改善”なのだと思う。マニュアルの書き方の問題だが、その辺りのことを明確にした方が、各委員の評価もバラツキが少なくなるのではないか。例えば、“要改善”については、市民への説明責任が果たされていない、理解できない状態ということだと思う。

委員長 “市民への説明責任が果たされておらず”、ではなく、“市民が理解しにくい”というような基準にした方がより直感的ということだと思う。

委員 検証マニュアルの事例だが、×の例は“要改善”に位置付け、○の例は“良”に位置付け、×と○の間を“可”にするというのはどうか。ただし、そうすると、比較的厳しい評価になる。

事務局 “良”、“可”、“要改善”の区分については、通信簿で言えば、“良”、“可”は合格、“可”はぎりぎり合格、“要改善”はもう一度やり直しというイメージで、御提案申し上げた。マニュアルの事例については、×の例は好ましくないので、理想形である○の例にできるだけ近づけて欲しいと所管課には説明しており、○の例は、かなりレベルとしては高いものと考えている。

委員長 成果重視ということから言えば、“ を整備しました ”で説明が終わって  
れば、これは、“要改善”ということになるのではないかと思う。やはり、市民  
にとって、どれだけハッピーであったかということについて、ある程度、記述  
がないと、何のための施策、事業かということになる。

事務局 行政側で、施策課題の表題と、それがめざすべきものは何なのかというこ  
ともう少し、しっかりと書き込んだ上で、取組の内容やその成果を説明してい  
くことが重要であるということに改めて認識した。

委員長 そういった面では、やはり、市民に分かってもらうということが、ある程度、  
出てこない、評価のスコアは上がっていかないと思う。委員から×の例だと  
“要改善”で、 の例だと“良”にすると、かなり厳しい結果になるという話  
があったが、だとすれば、もっとシンプルに、2つに分けて、YESの程度の高  
いものが“良”で、そうでないものは“可”とし、これでは駄目、許容できな  
いというものを“要改善”とするというのはどうか。なぜ、許容できないか  
ということは、各委員に考えていただくとして、市民への説明としては、まあ  
まあであるというものは“可”以上、これは駄目ですよというものは“要改善”  
という視点で見れば、やりやすいと思う。

委員 そうすると、「地域特性を活かした公園の整備」の施策の例で、成果の説明が  
「 を整備しました」という説明をしているが、これだと、“要改善”なのだ  
と思うが、問題は、行政側で、アウトカムの説明ができるのかといったことも  
心配する。

委員長 “やりました”だけでは、我々は成果重視だから、もう一步欲しいですよ、  
その先の説明がないと、“良”にはなりませんと言っているわけで、その部分で  
あれば“可”という話でもいいと思う。例えば、その取組によって、市民の意  
識がどう変化したかということが毎年のアンケートなどで把握できれば、より  
良いと思う。

副委員長 それは、行政の担当者がある程度のデータを持っているのではないかと思う。  
担当者のところには、いろいろな情報が集まってくるので、そうした情報を入  
れて説明していただければ良いと思う。

また、ハード系の整備の事例をマニュアルの中にも、入れて欲しい。

事務局 可能な限り、OUTCOME 的な説明をしていきたいと考えているが、なかなか説明が難しい施策もあり、今後の課題であると認識している。ただ、すべてについて OUTCOME 的な説明がないと、市民への説明責任が全く果たされていないということになってしまうと、非常に厳しい。現在も、できるだけ、単にやりましただけでなく、その結果、どうなったかの説明を行うよう努めているが、その取組を一層進めていきたい。

委員長 読み手にとって、分かりやすく説明していただければ、良いと思う。

委員 課題や目標の設定と成果の説明とがうまくつながるような説明をしていただければと思う。例えば、成果に“ を整備しました “、“ 計画を作成しました “と書いてあっても、それが順調なのか、そうでないのかが分からない、そういった、施策全体でどうなっているのかという説明が必要だ。

委員長 各項目を個別に見ていくというよりも、全体として流れがきちりと分かるかということに、書き手の側も注意していただければと思う。

本日、議論したような内容を念頭に置きながら、各委員による検証を行い、その結果を市にフィードバックしていくことで、市の評価を改善していくとともに、我々自身の今後の検証にも活かしていくことができればと思うが、いかがか。

委員 マニュアルについて、×の例は“可”なのか、“要改善”なのか。どうするか。

委員長 これはどうしようもないというのは、“要改善”で、後は改善の程度という理解をしてもらって、他の模範とするに足ることになれば、最上級の評価になるであろうし、まあその程度でしょうという評価であれば、“可”ということになると思う。それでやってみてはどうか。

例えば、“良”の例としては、公園の整備で言えば、“ を整備しました “だけでなく、さらに踏み込んで、その結果、どうなったか、OUTCOME 的な説明まで行っているものということでどうか。現在の評価票を見ると、そこまで踏み込んで説明できているものが多くないので、インセンティブを与えるという意味でも良いのではないか。

委員 とすると、少し、マニュアルの記載を改めたほうが良いと思う。

事務局 分かりやすい形に改めたい。

委員長 結論としては、市民への説明責任が全く果たせていないというものを“要改善”として、後は改善の程度に応じて、例えば、成果の説明で、やりましたという OUTPUT 的な説明だけでなく、さらに踏み込んで、その結果、どのような成果がもたらされたかという OUTCOME 的な説明まであれば、“良”、そこまでいかないものを“可”としたい。

以上のような考え方で、委員間のコンセンサスを得たということでしょうか。

一同 異議なし。

#### 議事 4 その他

委員長 他に意見がなければ、質疑は以上としたいが、いかがか。

一同 異議なし。

以上